

# DC油剤

デーシー

## D-D剤



### 2 圃場の確認

### 1 圃場準備

処理する前に  
シッカリ整備!



効果低下の要因や病害虫の発生源になる作物残渣は取り除く  
深めの耕起とていねいな整地を行う  
浅い耕起、土がしまっているとガスがきちんと拡散しない



適湿状態



乾燥状態

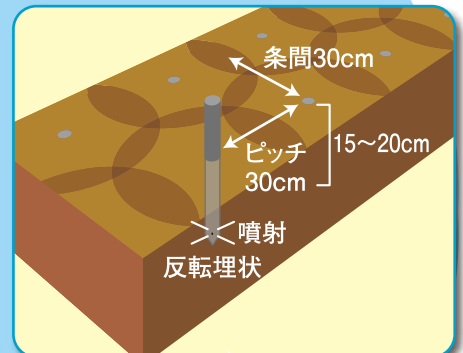


過湿状態

土壤水分が  
カンジン!

軽く手で握って開くと割れ目ができる程度が最適

### 3 注入作業



間隔と深さは  
一定に!



### 4 ガス抜き・定植

ガス抜きは  
シッカリ丁寧、確実に!



- 幅広い作物に使用でき、作物をセンチュウの被害から守ります。
- 有効成分1,3-ジクロロプロペン97%含有、優れた効果を示します。
- 低温時でも効果を発揮し、さまざまな場面に適応しています。

有効成分：1,3-ジクロロプロペン・・・97% 人畜毒性：劇物 包装：20ℓ缶

高濃度土壌くん蒸剤

DC油剤

有効成分：1,3-ジクロロプロペン・・・97.0%  
人畜毒性：劇物  
包装：200缶

適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	D-Dを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー、カリフラワー	テンサイシストセンチュウ	20g/10a (1穴当り2ml)	作付の 10~15日 前まで	1回	全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の畝盤の目に切り千鳥状に深さ15~20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
はくさい、ほうれんそう、キャベツ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15~20g /10a (1穴当り 1.5~2ml)			1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の畝盤の目に切り千鳥状に深さ15~20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作業処理 は種又は補付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	
ねぎ	ネダニ類	20g/10a (1穴当り2ml)			全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の畝盤の目に切り千鳥状に深さ15~20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	
うり類(漬物用)	センチュウ類 コガネムシ類幼虫	15~20g /10a (1穴当り 1.5~2ml)				
かんしょ	ネコブセンチュウ	15~30g /10a (1穴当り 1.5~3ml)				
	ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15~20g /10a (1穴当り 1.5~2ml)				
きく	ネコブセンチュウ コガネムシ類幼虫	15~40g /10a (1穴当り 1.5~4ml)				
	ネグサレセンチュウ	15~40g /10a (1穴当り 1.5~4ml)				
だいず、えだまめ	ダイズシストセンチュウ	20g/10a (1穴当り2ml)				
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげんを除く)	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	15~20g /10a (1穴当り 1.5~2ml)			植付の 10~15日 前まで	
樹木類	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫					
すぎ、ひのき (は種床、床替床)	ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫 ネコブセンチュウ コガネムシ類幼虫					
ばれいしょ	青枯病 そうか病	30~40g /10a (1穴当り 3~4ml)	作付の 10~15日 前まで	1回	全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の畝盤の目に切り千鳥状に深さ15~20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土し、ポリエチレンビニール等で被覆する。	
	ジャガイモシロシストセンチュウ	40g/10a (1穴当り4ml)				
茶	ネコブセンチュウ	20g/10a (1穴当り2ml)	作付の 30日 前まで	1回	1) 全面処理 耕起整地後、30cm×30cm間隔で地表から深さ15cmに所定量の薬液を注入し、直ちに注入口をふさぎ、鎮圧する。 2) 畦内処理 植付前、畦立・畦面被覆後に、補付予定位置の深さ15~20cmに所定量の薬液を注入し、直ちに覆土鎮圧する。但し、ガス抜きは行わないこと。	
たばこ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	4~6g/10a (1穴当り 1.3~2ml)	作付の 30~45日 前まで			

上手な使い方

処理前の作業

- 前作物の残渣などは取除いてください。
- 耕うんは細かく、ていねいに行ってください。

処理時期とガス抜き期間

- 季節によって、薬剤処理からガス抜きまでと、ガス抜きから植付までの日数が異なるので、処理時期と植付時期は正しく計画してください。



上手な処理の仕方

- 注入は地表から15~20cmの深さに行ってください。
- 全面処理の場合：手動消毒機なら30cm千鳥で深さ15~20cmに、動力消毒機なら30cm間隔で深さ15~20cmに所定量の薬液を注入して覆土・鎮圧してください。
- 部分処理の場合：は種または定植の予定部分に30cm間隔で深さ15~20cmに1穴当り所定量の薬液を注入して覆土・鎮圧してください。
- 有機質の多い畑、低温のときなどの場合は登録の範囲内で薬量を多目に行ってください。
- 処理量を多くしたとき、ハウス内のとき、雨が降ったとき、低温のときなどは、ガス抜きはとくにていねいに行ってください。

効果・薬害等の注意

- 土壌中にガスを十分拡散させるため、耕起、整地はていねいに行ってください。
- 処理は原則として作付の10~15日前に行い、作付の3~4日前に畑を耕起して十分にガス抜きをしてください。ガス抜きが不十分な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 処理後大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行ってください。
- 温度の低い時、薬量を多くした時は、注入から作付までの期間を少なくとも1週間くらい長くしてください。
- 処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意してください。
- ばれいしょのそうか病に対しては、地温が低いと効果が不十分な場合がありますので注意してください。
- 処理後の放置時間と効果、薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって一様でないため本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意してください。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意

- 農業用劇物。取扱いは十分に注意してください。
- 本剤は毒性が強いので取扱いは十分に注意してください。
- 誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、保温して安静にしなから、直ちに医師の処置を受けてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には通風の良好な場所ですて足を高くし、顔を横に向け、体を覆い、頭部を冷やして安静にしなから、直ちに医師の処置を受けてください。
- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の処置を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗ってください。

- 本剤の投薬及びガス抜き作業の際は吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク、不浸透性手袋、保護眼鏡及び長ズボン・長袖の作業衣を着用し、薬液が皮膚に付着したり、揮散したガスを吸い込んだり、また薬液がガスが眼に入らないよう注意してください。
- 作業に際してはガスに暴露しないよう風向き等を十分に考慮してください。特に住宅付近での使用に当たっては十分注意してください。
- 作業後は直ちに手洗、顔などを石けんでよく洗い、洗剤うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かたがれやすい体質の人は取扱いは十分に注意してください。
- 本剤が衣服等に付着した場合には直ちに着替え、本剤が付着した衣服等は他のものとは分けて洗濯し、臭気が抜けるまでは身に付けしないでください。
- 茶葉を収穫する茶樹成木には使用しないでください。また茶樹幼木に使用する場合は、翌年に茶葉を収穫しないでください。
- ミツリチの奥箱周辺での使用は避けてください。
- 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児や作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入りしないよう十分に注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、作業中及びくん蒸中、小児や作業に関係のない者が使用区域に立ち入りしないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱及び作業はしないでください。
- 危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めてください。漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。移送取扱いはていねいに行ってください。
- 水生動物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用は避けてください。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。散佈器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水生動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

【保管】火気を避け、食品と別けて、種子、苗、肥料及び他の農薬などと隔離された直射日光が当たらない、錆のかかる低温で乾燥した場所に密栓して保管してください。

★使用前にはラベルをよく読んでください。★ラベルの記載以外には使用しないでください。★本剤は小児の手の届く所には置かないでください。★空缶は圃場などに放置せず、適切に処理してください。この印刷物の記載内容は2024年4月現在のものです。